

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 役員選任「立候補意思表明書」

2021年 4月 25日 氏名山口隆文

【JHF 活動履歴】

ハングパラ振興委員会2期

教員・スクール事業委員会1期努め、現在2期目

【JHF 定款への理解】（どれかひとつを選択してください）

熟知している ある程度理解している 一通り目を通した これから目を通す

【立候補意思表明】公益社団法人 JHF の活動に関するご自身の考え方。

その際に下記2点を含めて下さい。

- (1) 今後の JHF が活動していくべきと考える事
- (2) ご自分が理事として実践していきたい事

フライヤー会員の減少に伴い、JHF としての構造改革や事業規模の見直しも必要であると考えます。まずは一度しっかりと JHF の事業内容とその効果を見直し、事業の再構築を行い、フライヤーへの利便性の向上、効率的な事業への支出を目的として、フライヤーの年齢層やライフスタイルに対応したシステム構築や事業を実施する必要があるのではないかと考えます。より効率的な事業への推進によって、スカイスポーツの振興につなげ、フライヤーの増加へ転換する抜本的な改革が必要と考えます。

都市部には多くのフライヤー会員登録者がいるが、フライトエリアが少ない又は存在しない。しかし都市部に隣接した県や地方ではフライトエリアは多数あるのにフライヤー会員登録数は少ない。実際飛ぶ場所がある都道府県連は活動費が少なく、人口だけが多い都道府県連は活動費が多い状況にあります。スカイスポーツの振興はスカイスポーツが行われている場所で推進していかなければならないと考えます。

これらを考えれば、より効率よくスカイスポーツの振興を全国隅々へ支援する余地は残っていると考えます。今の状態であれば、フライヤー会員登録数の少ない県連はより縮小せざるを得ません。このままでいいのだろうか？

また、フライヤー会員登録をカードでの郵送ではなくWEB上でIDとパスワードにて管理するようなシステムにしてコストを下げて利便性をあげられないのだろうか？

今や金融や情報もスマートフォン一つで管理されるようになっている現代において、ペーパーレス化、郵送を縮小することによりコストも下げて持続可能なものへと再構築へするタイミングにも来ているのではないかと考えます。

このように今まであたり前のようにしてきたことを、時代や状況の変化に伴い変えるべきところは変えていくような提案をしていきたいと思います。

※この立候補意思表明書は JHF ホームページに掲載し一般にも公開されます。

時数制限はありません、また必要に応じて用紙を増やして下さい。

この用紙をワードファイル (.doc) での提出、または上記項目を漏れなく網羅してテキストファイル (.txt) で提出することも可とします。詳しくは「立候補意思表明書の提出について」をお読みください。